ねんきんだより Pensions News

保険料免除の申請は毎年必要です

経済的な理由などで国民年金保険料を納付することが困難な場合は、申請により保険料の納付が免除・猶予となる制度があります。

保険料の免除や猶予を受けず、保険料を納めていない状態で、万一、障害や死亡といった不慮の事態が発生すると、障害基礎年金・遺族基礎年金が受けられない場合があります。

令和３年度の免除などを７月１日(木)から受け付けます。審査対象期間は、令和３年７月から令和４年６月までです。なお、保険料免除・納付猶予が承認される期間は、保険料の納付期限から２年を経過していない期間について、さかのぼって免除などを申請できます。また、申請は原則として毎年度必要です。ただし、全額免除および納付猶予の承認を受けたかたは、継続申請することができます。

今まで全額免除または納付猶予の承認を受けており、継続申請をしていないかたは、６月で承認期間が切れています。引き続き免除等を希望する場合には申請が必要です。

申請するかたは、必ず令和２年中の所得の申告またはご家族の扶養申告を済ませてください。また、配偶者および世帯主の申告も済ませてください。

問合せ　太田年金事務所 ☎４９－３７１６

消費トラブルにご注意！

新型コロナワクチン関連詐欺にご注意！

【事例１】

中国製ワクチンを有料で接種しないかという勧誘の電話があった。（80歳代 男性）

【事例２】

新型コロナワクチンの関連で、私の口座情報や個人情報を尋ねる電話があった。（60歳代 女性）

【ひとこと助言】

新型コロナワクチンの接種に便乗した消費者トラブルや悪質商法に関する相談が多く寄せられています。

新型コロナワクチンの接種は無料です。ワクチン接種に関連付けて費用を求められても決して応じないでください。

国や市町村などの行政機関などが「ワクチン接種に必要」などと言って個人情報や金融機関の情報を電話やメールで聞くことはありません。

少しでもおかしい、不安だと感じたときは「新型コロナワクチン詐欺 消費者ホットライン　☎0120-797-188」または消費生活センターにご相談ください。

相談は消費生活センターまで　☎８２－７８３０（ナヤミナシ）

休日当番医

期日	内科系		外科系	耳鼻科
７月４日（日）	かさはら内科医院 ５５－２５３７	竹越医院 ８４－３１３７	高木整形外科（午前のみ） ６２－６６１１	板倉耳鼻咽喉科クリニック ８０－４３３３
７月11日（日）	森下内科医院 ７３－７７７６	菅沼医院 ７２－９０９０	館林市夜間急病診療所 ７３－２３１３	－
７月18日（日）	加藤医院 ８９－１０３１	田沼内科医院 ８８－７５２２	井上整形外科医院 ８２－１１３１	川田耳鼻咽喉科医院 ７２－３３１４
７月22日（祝）	さくま内科胃腸科クリニック ５５－２５００	神尾内科医院 ７５－１２８８	ふじの木整形・内科クリニック ９１－４０７０	－
７月23日（祝）	おうら病院 ８８－５６７８	藤原医院 ８８－７７９７	しんじょう整形外科クリニック ５５－３６２３	－
７月25日（日）	須田内科医院 ６３－１４１４	たけい小児科・アレルギー科※ ７６－２５２５	慶友整形外科病院 ４９－９０００	－
８月１日（日）	はまだクリニック ８０－１１００	こやなぎ小児科※ ８０－２２２０	富士クリニック・ペインクリニック ２０－１９７１	川村耳鼻咽喉科医院 ７２－１３３７
８月８日（祝）	県西在宅クリニック館林 ５５－３８１８	うえの医院 ７２－３３３０	海宝病院 ７４－０８１１	－

歯科	
館林邑楽歯科保健医療センター ７３－８８１８ 午前９時～正午	◆緊急　公立館林厚生病院　☎７２－３１４０（内科系・外科系） ◆コロナに関すること　群馬県受診・相談センター ☎０５７０－０８２－８２０（24時間受付）

●診療時間は、午前９時～午後５時（ただし、耳鼻科の診療時間は、午前９時～午後１時）
●内科系の※は、小児科のみとなります。●受診前に必ず医療機関に電話で確認してください。
●救急テレホンサービス　☎７３－５６９９：受診可能な病院を紹介しています。

水道のことは
群馬県東部水道企業団館林支部
☎０２７６－８０－３２０１
（関連記事が９ページにあります）

Face フェイス

コミュニケーションをしっかり取って

退院後の日常生活のためしっかりと寄り添いたい

小野田知夏さん

おのだ　ちか　24歳
大字籾谷　在住

今は休日もあまり出かけられないので、家でネットショッピングやゲームをしたりして過ごしています

和やかな笑顔で

町が開催する介護予防サポーターの養成講座は、介護予防に関する基礎知識や予防運動の実技などを学び、地域社会に介護予防を広めるボランティアを養成するための講座です。

令和元年、大学を卒業して館林市内の病院にある館林地域リハビリテーション広域支援センターで理学療法士として歩み始めた小野田さん。板倉町で開催された養成講座に運動指導の補助として和やかな笑顔で登場し、先輩の理学療法士が運動方法を解説しているときに、受講者にわかりやすく実演をしていました。

理学療法士を志す

小野田さんが理学療法士を志したのは、幼い頃にいつもそばにいてくれた大好きな祖母が、不自由そうに歩くのを見て「おばあちゃんの痛みを取ってあげたい。少しでもよくしてあげたい」という思いからでした。

その思いは揺らぐことなく、大学に進学し、在学中に試験を受け、卒業後に国家資格を取得しました。

コミュニケーションを大切に

理学療法士になって３年目を迎えた今、日々大切にしているのは、患者さんの状態を常に感じ取れるように、あいさつや言葉遣いなど基本的なことを含めたコミュニケーションをしっかりと取ることだそうです。「自分の一言で、生活が変わることもあります。軽々しくよくなると言ってあげることはできません。けれども、手術後に自宅に戻られても、できるだけ普段どおりの日常生活が送れるよう、患者さんにしっかりと寄り添いたいと思っています」と話してくれました。そして退院した後に患者さんの元気な姿を見られたときは、うれしくなってしまうそうです。

今後は更に専門的な資格を取りステップアップを目指している小野田さん。コロナ禍の今は介護予防教室などの支援もなかなかできない状況ですが、理学療法士として患者さんに寄り添うとともに、板倉町の若き担い手である小野田さんの今後の更なる活躍を期待し、そして応援しています。

レポーター
広報編集委員
小薬智代